

きらり

令和8年7月

舞鶴市立新舞鶴小学校

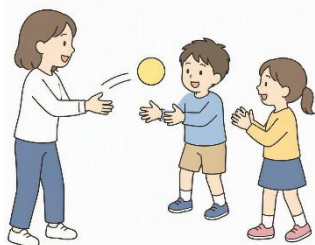
通級指導教室 62-4643

「何気なく聞いている」ことから学ぶ

本格的な梅雨の訪れを感じる季節となりました。6月には6年生の修学旅行や4年生の社会見学、7月初めには5年生の野外活動と、学校の外に出て地域や社会に触れる活動が行われました。学校で身に付けた力や知識を、実際の場で見たり体験したりできる貴重な機会です。子どもたちは「修学旅行で USJ が楽しかった。」「社会見学で浄水場を見に行くんですよ。」などと嬉しそうに話してくれました。



「何となく知っていること」「聞いたことがあること」と「授業で学習したこと」が結びついたときの、子どもたちの理解の深まりや吸収の速さには驚かされるものがあります。4年生の子どもたちとキャッチボールしながら都道府県を言い合う活動では、子どもたちは迷うことなく、次々と都道府県を挙げていきました。ちょうど社会科で学習していた内容だったため、スラスラと出てきたそうです。それまでの子どもたち



の知識は、「ぼくたちの町は舞鶴」「京都とか大阪に行ったことがある」など、経験に基づいた「点」の情報でした。それが、社会科の学習を通して「都道府県」というつながりへと広がっていったのだと感じました。

一方で、授業だけでは学習は十分に身に付くものではありません。普段、何気なく見聞きしていることや「偶然」知ったこと、これまでの経験があるからこそ、学習は身に付きやすくなります。最近は、家庭でテレビのニュースを見る機会が少なくなってきました。大人はスマホやパソコンでニュースを検索したり、気になる記事を選んで読んだりすることができますが、子どもたちにとって文章中心のニュースはまだ難しい面があります。「ニュースまとめ」のショート動画もありますが、内容の正確さという点では注意が必要な場合もあります。テレビのニュースを聞き流す中で、「アメリカで…」「気象庁は…」「梅雨前線が…」といった少し難しい言葉に繰り返し触れる。興味があることだけでなく、さまざまな話題に触れる中で、だんだん言葉の意味や社会の出来事が分かっていく——こうした「偶然の出会い」も、子どもたちの学びにとって大切な機会なのかもしれません。



長い夏休みがもうすぐ始まります。日常生活の中にも、子どもたちの学びにつながる場面がたくさんあると思います。元気に過ごし、夏休み明けにいろいろな話が聞けることを楽しみにしています。

夏休みに、通級担当者と学級の担任の先生とで、通級指導教室での様子や学級での様子を交流する時間を持ちます。話したことをもとに、2学期からの指導に生かしていきます。